四谷の
千枚田だより
第243号
2024

収穫感謝祭

十二月十日、好天で、しかも日中二十一℃と真冬には異常な暖かさの中、保存会は一年の締めくくりとした収穫感謝祭～みんなで感動！

さあ～つかまい！感謝をこめて餅つきを～を地域住民をはじめとした大勢の参加者ともども、一体になって実施した。

十時、会長はコロナ禍で四年ぶりの開催であること、また、ここ数年の天候不順による不作続きにも拘わらず、強固な魂をもって千枚田の保存継承に尽くす百姓衆や、それを応援していただく皆さんに感謝するとともに、本日のイベントは皆さんのご好意、協力金で賄われる。そこんところをご承知おき、すべて自由(無料)に飲み食いして頂ければ、と挨拶。感謝祭を開催した。

会場ではまぼろしの鈴原糯を一回に二臼ずつ(あんこ、きな粉、大根おろし、よもぎ餅にし)計六臼を振る舞った。また、獣害対策で捕獲したシシ汁、名産の「鳥長の皮肝」等の焼き肉。嬉しいことに、お馴染みの丸八製菓「八雲だんご」のご厚意から串だんごを沢山戴き、古民家カフェ「たてば」のスタッフが汗だくで焼いて振る舞った。テントでは昔、若かった「棚田っ娘」の地域名物「千枚田五平餅」も好評であった。

「河西 忍とゆかいな仲間」も、四年ぶりの開催に約二十人の生バンドの仲間たちが集結。「天空のコンサート」として感謝祭に華を添えて頂いた。おかげで感謝祭はピークに達し、伝承行事の盆踊りが始まってしまった。地唄のなかでも軽快な手踊り「ちょいなちょいな」に参加者も身振り手振りで踊りだす始末。何にしても、この師走に盆踊りが自然発生的にでたことは、参加者全員が一体に、有無もなく楽しんでくれた証でもあると解釈。ホッとした。衆議院議員今枝先生も国の棚田保全支援「棚田地域振興法(つなぐ棚田遺産)」などの挨拶、「むらびと」や参加者と共に楽しんだ。

棚田サミット

第二十八回全国棚田(千枚田)サミットが十一月十八日(土)～十九日(日)の二日間、和歌山県那智勝浦町で開催され、鞍掛山麓千枚田保存会は高橋孝行、田中幸夫、丸地典利、松下 誠、小山舜二が参加した。

早朝五時出発、会場の那智勝浦町体育文化館にて、十時半の事例発表から参加した。

事例発表 棚田をまもろう会 外山麻子氏が「想像力がつなぐ棚田、私たちは今」と題して発表。氏は横浜育ち、大学では都市から農村への移住について研究。卒業と同時に色川に移住し、家族と有機農業を核とした自給的な暮らしをしている。田舎暮らしを選ぶ人が増えるよう体験の受け入れ等を行っている等々、実践的な発表であった。

基調講演 島根県中山間地域研究センター研究企画監 有田 正一郎氏 島根県にIターンし現職。主な研究分野は地域運営の仕組み作り、ソーシャルビジネス、若者定住と必要な生活費、少子化対策、地域経済循環などで、「次世代に引き継ぐための地域の体制作り」と題して島根県を事例に「人口減少の局面において、農業・農山村をどう支えていくか」、「担い手=住民が暮らし続けるためには、どんな地域の体制が必要か」を中心に講演された。

分科会 ・「関係人口の継承」・「集落空間の継承」・「災害教訓の承継と継承」・「地域振興下の棚田保全」の四分科会でそれぞれ議論された。

保存会は中島峰広棚田博士がコーディネーターの第四分科会「地域振興下の棚田保全」に参加した。この分科会は中島先生を中心に棚田を保存継承するエキスパート(選ばれた百姓)が忌憚のない意見交換の場「棚田ミーティングの会」として発足、人気も大きく年度ごとに国を東西に分けて開催したりした。今回は希望者を募り、先着百人に制限したとか…。パネラーの元農林水産省農村振興局地域振興課長 松本雅夫さんの棚田地域振興法を活用した棚田保全「棚田地域振興法」について懇切丁寧な説明があった。

平成十一年「棚田百選」選定、翌十二年から中山間地域等直接支払制度、そして棚田地域振興法(つなぐ棚田遺産)等々の関わりが深く、棚田保全継承のお話の内容からも温情が伺われた。

意見交換で、私は松本さんに棚田地域振興法は令和七年三月三十一日までの時限立法とのお話でしたが 現在五期を継続中の中山間地域等直接支払制度も一期五年であった。当時の棚田サミットでは二期、三期継続を大テーマに要望した経緯がある。棚田地域振興法も棚田の百姓に保存意欲が沸くような温かい法改正を施し、是非とも、この恩恵ある制度の継続をお願いしたい。今日、この席に現職の担当課長さんもおられます。大きな拍手をもってお願いしようではありませんか。と発言、会場の皆さんからも大きな拍手(賛同)を得ることができた。

現地見学 色川の棚田群

途中、マイクロバスからワゴン車に乗り換え「ぽつんと…」の様な曲がりくねった沿道を進み棚田群へ。一見、一度は放棄した棚田を一部再生したような光景にビックリ。田んぼの中身より土坡のほうが広いじゃんかん、機械(耕運機)も出し入れできんし、畦も手ぬりだ。これを見ると、うち(四谷の千枚田)の田んぼがえらい(大変)なんて言っちゃぁ～おれん。こりゃぁ～大変だぁ…と、語り合った。色川の棚田群は那智勝浦町の色川地区に広がる棚田群で三十一㌶。四十年以上前から移住に力を入れており、オーナー制度を取り入れたり、地域一体となって保全活用に取組んでいるそうだ。

栽培方法は農薬・化学肥料不使用、水苗代、手植え、手刈り、天日干しというが、四谷の千枚田では到底、考えられないし、この方法では田んぼの雑草が害虫の温床になり、周囲に迷惑が掛かるし…、そんな手間暇がない。と感じた。すみません…

=第二十九回 全国棚田(千枚田)サミット 長野県上田市「稲倉の棚田」 令和六年十月十七日・十八日開催=

写真 四谷の千枚田(石積の棚田) 十一月二十四日撮影

発行 令和五年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山 舜二